令和８年度　清瀬市立清瀬第五中学校　校長室たより ９月ノ４号　発行日 R8,9,24　五中 HP

ひまわりノ畑

教育目標　思索・和敬・剛健
学校スローガン　笑顔 と あいさつ そして ありがとう

http://www.kiyose.ed.jp/kiyosedaigotyuugakkou/index.htm

金木犀（きんもくせい）と曼殊沙華（まんじゅしゃげ）が咲きました


キンモクセイ


ヒガンバナ

五中には、大きな「**金木犀**」が、校庭と北校舎裏にあります。9/17(木)の夜、帰宅のために玄関を出ると、甘い香りが満ちていました。翌朝、金木犀を見に行くと、**萱草色（かんぞういろ）**の花が綻び始めていました。開花期間は１週間くらいなので、最盛期は連休中になってしまし、すこし残念です。

中庭の桑の木の根元では、9/14(月)頃から「**曼殊沙華**」の花茎が伸び始めて、9/18(金)は満開でした。五中には、**生成色（きなりいろ）**と、**緋色（ひいろ）**の２種類があり、今年は同時に咲いています。曼殊沙華の標準和名は「**ヒガンバナ**」で、由来は諸説あるそうですが、漢字で「彼岸花」と書き、秋のお彼岸の頃に咲くことからそう呼ばれたそうです。したがって今年は、ドンピシャリで咲いたことになります。

ヒガンバナは、秋に地面からいきなり花茎（花を付ける茎）を伸ばして花を咲かせ、散った後にロゼット状に葉を広げ、寒い冬に養分を蓄え、初夏には葉を枯らして地上から姿を消して眠りにつきます。変わった生活サイクルを持ち、花の蜜で蝶々を呼びますが、種は作らずに球根で増える不思議な花です。マンジュシャゲという名称は、仏教やインドの呼び名に由来をしているそうで、理科という見方・考え方以外でも、文化・伝承・歴史・宗教・食用など、色々な切り口で調べても面白い植物ですので、気になったら調べてみて下さい。

昨年、金木犀の開花は合唱コンクール(10/10)の数日前でしたので、３週間くらい早いことになりますが、昨年は残暑が厳しかったので、今年が通常のようです。「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉がありますが、キンモクセイも、ヒガンバナも、秋を代表する植物ですが、夏を代表する**薄紅色（うすくれない色）**の花の「**百日紅**（サルスベリ）」や**乳白色（にゅうはく色）**の「**芙蓉**（フヨウ）」の木もまだ咲いていますが、そろそろ終わりです。本校創立に関わった方々が「四季折々の花が咲く学校」を目指して、様々な植樹をして下さり、おかげ様で、一年中花が色々な花が咲き、四季を楽しめる学校です。先人の方々には、感謝が尽きません。ありがとうございます。

●萱草色：ユリに似たカンゾウというの花の色、鮮やかで赤味を帯びた黄色　●生成色：わすかに黄色味を帯びた白
●緋色：黄色味が入った赤色　●薄紅色：淡く優しくうすい紅色　●乳白色：わずかに灰色や黄色味を帯びた白色
※ お彼岸：「秋分の日・春分」を中日としての１週間、ご先祖様を供養する日本の伝統行事

せわしく、”修学旅行”に行ってきます！ 9/24(木)～26(土)



新学期が始まり、バタバタとせわしく日々がすぎ、３年生は今日から三日間の修学旅行に行ってきます。３年生が新幹線に乗って京都に向かう時間、１，２年生は、机に座って、定期考査の問題にむかっていると思います。

修学旅行の日程は、２年前の「新幹線団体列車抽選会」により決まり、合唱コンクールの日程は、１年前の「所沢市文化センター」の抽選で決まったとは言え、行事の間が２週間しかなく、その前には、生徒会役員選挙を実施して、後期の学校体制づくりと、やることがメジロ押しで、中間考査は秋の五連休を挟んで学年で分けるなど、大変せわしい日程となってしまい、さらに運動部は秋の大会も進行中で、１，２年生の皆さんは、シルバーウィークを勉強と行楽・部活のバランスを取り、過ごしてくれたと思います。３年生と教員の皆さんは、試験勉強に、問題作成・採点業務にと、大変だったと想像していますが、何とか乗り切って頂き、ありがとうございました。



残暑と秋雨前線の心配はありそうですが、大崩れになることはなさそうです。生徒の皆さんにとって、思い出たくさん、学びいっぱいの修学旅行になることを願っています。

2学期より、学校に「電子黒板」がやって来た！



9/3 利用開始　国語科授業

清瀬市では、本年度より今後 10 年間の「第３次清瀬市教育振興基本計画」が始まりました。その「実行計画(R8～10)」に掲げる『方向性５：教育環境の強化・充実』の中にある「３．学校 ICT の環境整備、③情報教育機器の整備：電子黒板配備」に沿って、２学期より、市内５校の中学校に電子黒板が導入されました。本校には予備機も含めて１０台が届き、前年に寄付で頂いた１台を含め、全教室と少人数教室すべてに配備でき、今まで使用していたモニターとプロジェクターは体育館や特別教室に常設できるようになりました。　※第3次振興計画はこちらからご覧下さい。https://www.kiyose.ed.jp/_res/projects/project_education/_page_/002/006/828/gaiyou.pdf

2学期最初の授業から、早速利用スタート！



都研修センター指導主事によるOL講義

夏休み中に搬入され、8/27 に使用方法の OL 講習会があり、ＩＣＴ推進の中核となる教員が受講して、活用方法の検討が始まりました。本年度より、新タブレットによる 2nd GIGA が始まり、昨年度からタブレットの持ち帰りを始めましたが、本年度からは「完全持ち帰り」とし、家庭学習での利用をスタートしました。ご自宅での充電や管理をお願いし、登下校時の荷物の増加など、保護者と生徒の皆様には負担をお願いしており、ご協力に感謝申し上げます。早速、２学期最初の授業から利用開始です。

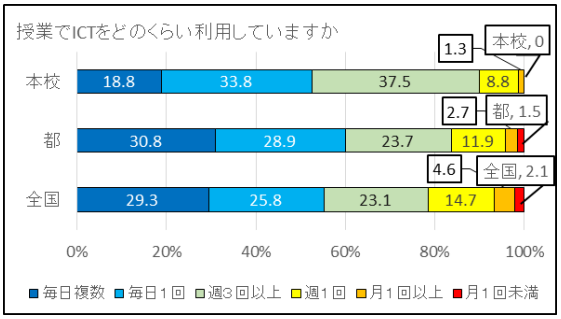
R8 年度　校内研修会のテーマは、ICT・AI です。



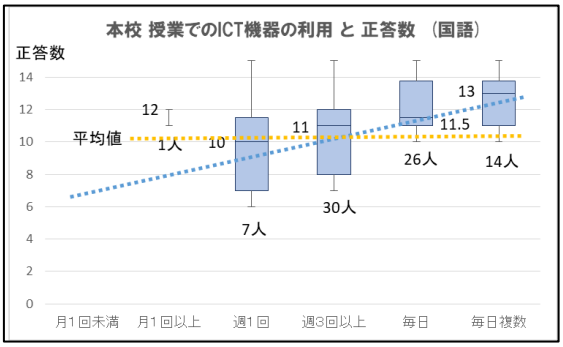
教科分科会で授業活用の検討

本年度の校内研修会のテーマは「授業においての ICT・AI の効果的な活用術」で、教科グループ毎に活用方法の試行を進めていますが、タブレットと電子黒板、デジタル教科書の相性は良いようで、学校の授業と家庭学習を連動させるなど、学習方法が劇的に変わる可能性があるように感じております。

ICT 活用と学力の関係（全国学力調査）

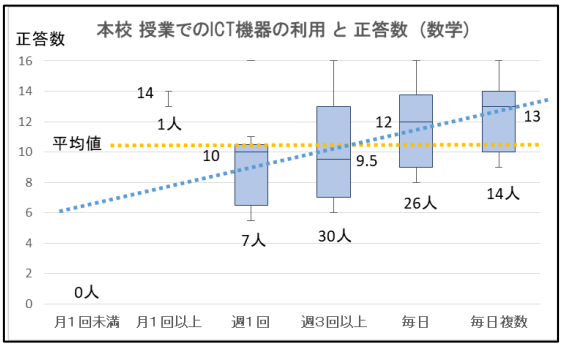


右の図は、全国学力調査にあった「昨年度、授業で ICT 機器をどの位の割合で使用したか」との質問の結果です。生徒は基本的に同じ授業内容を受けていますので「意欲的に意識して使っているか」の実感と言えますが、都や国の平均と比較して、教科授業での活用は、進んでいなかったと言えます。右下の図は、本校においての上記質問と国語・数学の正答数の分布図です。ICT 機器を授業で利用している生徒ほど、正答数が高いという結果です。



文科省の分析では「ICT 機器を活用する自信がある児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる。」とのことです。

デジタル教科書について、欧州で学力低下により、紙の教科書に回帰するという報道がありますが、文科省の調査(R6)によると、日本の先行研究で、導入した学級と、しなかった学級での学力は、同等で差異は見られなかったと報告されています。そもそも日本と欧州のその国では、教科の事情がだいぶ異なるそうです。



そして ICT 機器の授業利用については、全国学力調査の分析から「課題の解決に取り組む学習活動を行っている学校ほど、考えをまとめ、発表・表現する場面で ICT を活用している傾向がみられ、その両方に取り組んだ学校グループの生徒は、それ以外の学校グループに比べて、各教科の正答率が高い」と報告しています。

じょうずな使い分けがポイントになりそうです。

ICT 利用には、視覚・聴覚的に直感的に学べて理解がしやすい、情報へのアクセス等の利便性・効率性、修正がしやすいなどのメリットと、思考の痕跡が残せずに理解が浅くなるなどのデメリットがあります。紙の利用には、書く動作が脳への刺激となり記憶に残りやすい、学習過程の振り返りがしやすい、五感による情報で記憶の整理がしやすいなどのメリットと、学習に手間がかかる、読み書きの能力差などのデメリットがあります。要は、上手い使い分けがポイントのようです。先行導入をして課題や利点を見つけてくれた外国や研究校の成果を参考に進めていくことが大切で、自分の失敗からも、他人の失敗からも、学べです。